

この学校にわたしたち

2022. 10. 18

N037

当たり前に縛られず…

将棋において最近、「藤井曲線」という言葉が耳にします。AI（人工知能）による形勢判断のグラフが藤井聡太五冠の対局では中盤から後半にかけて藤井五冠に優勢を示すように曲線を描くことが



多いそうです。この曲線を「藤井曲線」といいますが、藤井五段に敗れた棋士の多くが「自分のどの手が悪かったのか分からない」と感じるそうです。藤井五段は5年前に29連勝を達成し、話題となりました。その強さは読みの深さであることは言うまでもありません。将棋では昔からの研究によって最善とされる手のことを「定跡」と言いますが、藤井五段はこの定跡を使わず、異なる手を使いながらも結果的にはそれが勝ちの要因となることが多いそうです。思考を固定せず、定跡（これまでのやり方）にとらわれないことが読みの深さにつながっているといえるのではないのでしょうか。

このことは単に将棋界のことだけでなく、一般社会においても（特に学校教育は…）通用することではないのでしょうか。この2年半、コロナ禍を経験し、“テレワーク”や“ネットショッピング”という言葉が多く使われるようになりましたが、今、社会システムや価値観が大きく転換しようとしています。10年後を待たずして、子どもたちが大人になる頃には今ある職業の何割かがなくなり、新たな職業が生まれてくると言われています。社会も学校も少しずつこれまでの“当たり前”に縛られず、柔軟な思考で“今、何をすべきか”“これからどうすればよいのか”など検討していくことが大切であると思います。学校の行事、授業のあり方についても“当たり前”“今まで通り”にとらわれず、職員と一緒に考えながら、また、保護者や地域の皆様の思いも聞きながら前にすすんでいきたいと思えます。